

1901年 (明治34年)	1912年 (明治45年、 大正元年)	1914年 (大正3年)	1915年 (大正4年)	1925年 (大正14年)		1926年 (大正15年、 昭和元年)	1927年 (昭和2年)		1929年 (昭和4年)	1931年 (昭和6年)	1932年 (昭和7年)	1933年 (昭和8年)	1934年 (昭和9年)	1937年 (昭和12年)	1941年 (昭和16年)	1945年 (昭和20年)		1946年 (昭和21年)		1947年 (昭和22年)	1948年 (昭和23年)	
	4月	10月	12月	3月	4月	6月	1月	9月	6月	4月	4月	10月	12月		12月	8月	9月	8月	9月	4月	11月	
マルコニーが大西洋横断無線電信に成功	タイタニック号遭難、無線電信の重要性が認識される	誠文堂新光社「子供の科学」創刊	ARRLの機関誌「QST」創刊	日本放送協会・東京放送局(JOAK)放送開始	第1回国際アマチュア会議がフランス・パリで開催。IARUが創立(マキシム氏会長)	日本アマチュア無線連盟設立 盟員37名	雑誌「無線の研究」がJARLの最初の機関誌となる	JAXA 草間貴吉氏にわが国で初の個人の短波私設無線電信無線電話実験局が許可される (38mA1・A3・10ワット・1波)	関西支部でガリ版刷りの「JARLニュース」創刊される(85判4頁)	JARL第1回総会が名古屋市中村公園内記念会館で開催 出席者30余名	大阪の白木屋百貨店で開催の「電気科学博覧会」で短波実験局の公開実験	日本最初のYL局杉田千代乃氏(J2IX)開局	JARL IARUに加盟(盟員152名)	ARRLがDXCCを制定。送信管807登場	太平洋戦争勃発 開戦と同時に私設実験局使用停止(日本アマチュア無線連盟報 No.96号で発行中止)	太平洋戦争終結	短波受信の禁止解除	東京・新橋の蔵前工業会館でJARL再結成全国大会を開催。会長に八木秀次氏、理事長に矢木太郎氏	「CQ ham radio」がJARLの機関誌として創刊(第1号 定価4円)	JARLマークが初めて公式に使用される	科学社「ラジオ技術」創刊	JARL盟員番号(SWL番号)を発給
<b>アマチュア無線年表(昭和初期)</b>																						

## アマチュア無線年表(昭和初期まで)

















1971年 (昭和46年)		1972年 (昭和47年)		1973年 (昭和48年)			1974年 (昭和49年)		1975年 (昭和50年)		1976年 (昭和51年)		1977年 (昭和52年)		1978年 (昭和53年)	1980年 (昭和55年)	1981年 (昭和56年)	1982年 (昭和57年)		1983年 (昭和58年)	1985年 (昭和60年)			1986年 (昭和61年)	
11月	2月	5月	8月	8月	5月	5月	10月	6月	11月	4月	5月	9月	9月	9月	3月	10月	11月	3月	4月	6月	1月	3月	9月	8月	11月
アマチュア無線関連機器メーカー31社によりJAIJA設立	札幌オリンピック冬季大会でJA8IOC局を開設	沖繩が本土復帰し、プリフィックスKR8がJR6となる	地方本部と各県支部発足	周波数の単位がサイクル(C)からヘルツ(Hz)に変更	7月29日を「アマチュア無線の日」と定め記念行事を開催	電波実験社「モービルハム」創刊	JARL NEWS 新聞形式から雑誌形式へ	点字JARL NEWS発行開始	CQ出版社「Ham Journal」創刊	第1回ハムベンション 富士山麓朝霧高原グリーンパークで開催	創立50周年を記念して沖の島島DXベティション(AJIRI)を致行	創立50周年記念式典を東京で開催 井深大、磯英治両氏の記念講演	第1回アマチュア無線フェスティバルを東京・晴海の東京国際貿易センター南館で開催 特別記念局8J1HAM開設	「アマチュア無線50周年記念式典」を東京で開催 記念切手を発行	日本のアマチュア無線家が製作に参加し、日本製の中継器と電源装置を採用したアマチュア無線衛星、オスカー8号が打ち上げ成功	オールシティコンテスト改め、第1回「全市全部コンテスト」を実施	(財)無線従事者国家試験センター設立許可	わが国初のレビータ局JR1WA(430MHz帯)を東京都豊島区に開設	WARCバンド(10MHz帯)が開放	高高度・広帯域のアマチュア無線衛星、オスカー10号が打ち上げ成功	電信級アマチュア無線技士の電気通信術の試験が受信のみとなる	科学万博つくば85で特別記念局8J1XPO開設(初の遠隔操作方式実施)	1エリアで呼出符号の再使用開始	H1ロケットにより、日本初のアマチュア衛星JAS-1「ふじ」が打ち上げ	創立60周年記念式典を東京で開催

## アマチュア無線年表(昭和後期)

## アマチュア無線年表(平成)



1989年 (昭和64年、平成元年)		1990年 (平成2年)			1991年 (平成3年)	1992年 (平成4年)	1994年 (平成6年)	1995年 (平成7年)			1996年 (平成8年)			1997年 (平成9年)			1998年 (平成10年)		2000年 (平成12年)		2001年 (平成13年)		2002年 (平成14年)						
7月	11月	2月	2月	3月	5月	8月	7月	9月	9月	1月	6月	8月	4月	8月	11月	3月	4月	7月	2月	7月	4月	11月	11月	12月	3月	5月	11月	5月	
WARC 79新バンド18・24MHz帯許可		第一・二級アマチュア無線技士の国家試験で、電気通信術の試験が音響受信のみとなる			JAS-1b「ふじ2号」がH-IIロケットで打ち上げ	無線従事者制度改正、電信級が第三級に電話級が第四級に 花の万博(大阪)で特別記念局8J9XPOを開設	(財)日本アマチュア無線振興協会(JARD)設立認可	郵政省告示アマチュアバンドの使用区別施行	ITU全権委員会議を京都で開催 特別記念局8N3ITUを開設	阪神・淡路大震災でアマチュア無線が非常通信に活躍	JARL事務局が豊島区巣鴨(〒114番5号)に移転	マルコニー・無線通信発明100周年特別記念局8J1OQYを開設	第一級国試から和文の電気通信術が廃止、操作範囲令改正	JAS-2「ふじ3号」がH-IIロケットで打ち上げ	JARL創立70周年記念式典 東京都港区のホテルオークラにおいて開催	JARLの第1回モルルス電信技能認定が東京・駒込の電通生協会館で開催	旧コールサイン復活制度が始まり、かつて指定されていた呼出符号が取得できるようになる	JARLの第1回インターネット・ホームページ「JARL Web」を開設	長野オリンピックで特別記念局8JφOGN、8NφWOGを開設	JARLのインターネット・ホームページ「JARL Web」を開設	西暦2000年を記念する特別記念局8J2000/8M2000/8N2000が免許	JGIZQU国会アマチュア無線クラブ会長、JIEKIT小淵恵三氏が内閣総理大臣に就任	アマチュア衛星Phase-III Dが打ち上げ成功	埼玉県の入間市児童センター・アマチュア無線クラブが、ARISスクールコンタクトにより日本では初めて国際宇宙ステーションとの交信に成功 (国際宇宙ステーションとの交信関係)	「アマチュア業務に使用する電波の型式及び周波数の使用区分」の144MHz帯が一部改正される	国際宇宙ステーションとの交信が、資格のない小・中学生等でも有資格者の立ち会いのもとで可能となる (平成14年総務省告示第154号)	FIFAワールドカップ(TM)サッカー開催 特別記念局8M1Cなどを 5月1日～6月30日の間全国10カ所で開催	「JARL創立75周年アマチュア無線再開50周年」記念式典を東京都千代田区のホテルグランドパレスで開催	南極昭和基地の8J1RLが「こゝもの日記念運用」
																													

2003年 (平成15年)		2004年 (平成16年)		2005年 (平成17年)			2006年 (平成18年)		2007年 (平成19年)	2008年 (平成20年)		2009年 (平成21年)	2010年 (平成22年)	2011年 (平成23年)			2012年 (平成24年)	2013年 (平成25年)		2014年 (平成26年)		2015年 (平成27年)								
5月	8月	1月	9月	3月	9月	10月	6月	12月	2月	5月	10月	7月	4月	3月	5月	10月	11月	6月	2月	11月	9月	11月	8月							
<p>国際プロジェクト「キューブサット」で、超小型アマチュア衛星X1(サイロ東京大学)とCUTE(キューートー東京工業大学)の2衛星が、ロシアのロケットROCKKOTで打ち上げ成功</p>		<p>改正電波法が施行され、電波型式の新表示、新バンドプランを実施 JARLの推進してきたデジタル通信方式の「DSTAR」の準備が整う</p>		<p>2005年日本国際博覧会(略称・愛知万博、愛称・愛・地球博)が開幕 JARLは「わんぱく宇宙局館」に8J2AIの特別記念局を開設し、9月25日までの会期期間中に全世界に向けて「愛・地球博」をアピールする</p>			<p>愛・地球博記念局でARRISSスクールコンタクトが実施され、21名の子供たちが国際宇宙ステーションとの交信に成功。国内で14例目</p>		<p>第6回IARU Reg. JARRDFチャンピオンシップが新潟県阿賀野市で開催 オープン参加のカザフスタン、ロシア、アメリカなど9カ国の選手団約100名を迎え、21日に3.5MHz、23日に14MHzの競技がおこなわれる</p>		<p>誠文堂新光社発行の月刊誌「MJ無線と実験」が6月号で通巻1000号を迎える</p>	<p>アメリカ連邦通信委員会(FCC)が、来春アマチュア無線の全クラスでモリス電信の試験を廃止すると発表</p>		<p>KDDI茨城衛星通信センターの32mパラボラアンテナ(IBA4)を使用したEME通信等の特別記念局8N1EMEを運用</p>	<p>ドイツン・ハムベション会場設置のレピータと国内に開設しているレピータと接続DSTARによる初めての国際通信が成功</p>		<p>JARLNEWSが1000号を迎える。昭和21年戦後復刊第1号が発行され、昭和38年からは新聞形式のタブロイド判、昭和48年からは現在の冊子形式となって現在に至る</p>	<p>7MHz帯拡大記念QSOパーティを2009年に限り開催</p>	<p>昭和の日、国際宇宙ステーション長期滞在中の野口聡一宇宙飛行士が南極昭和基地(8J1RL)とARRISSクルーQSOにより交信</p>	<p>11日14時46分18秒宮城県牡鹿半島の東南東沖130kmの海底を震源として東日本大震災が発生。日本における観測史上最大の規模、マグニチュード9.0を記録</p>	<p>第53回通常総会「いけだ総会」を大阪府池田市の「池田市民文化会館」で開催 社団法人日本アマチュア無線連盟としての最後のJARL総会</p>	<p>JARLは社団法人から一般社団法人へ組織変更となり、社員制度がスタート アマチュア無線技士の国家試験から電気通信術の実技試験を廃止</p>	<p>一般社団法人日本アマチュア無線連盟の第1回定時社員総会が、社員131名が出席して東京都千代田区で開催する</p>	<p>JARRL事務局が東京都豊島区南大塚に移転</p>		<p>アマチュア無線専門誌の「CQ hamradio」が、2月号で創刊800号</p>	<p>誠文堂新光社の「子供の科学」が、10月号で創刊90周年</p>	<p>JARRL事務局が東京都豊島区南大塚に移転</p>	<p>JARRL創立90周年記念祝賀会を開催(ハムフェア同日開催)</p>	<p>JARRDがアマチュア局の無線設備の保証業務を開始</p>
																														